

賢いはたらき方のススメ© conniest

アイドル百花繚乱時代が続いている。新陳代謝が激しい世界のなかで、地道に活動を続け、ローカルアイドル日本一の称号を得て以来変わらずに走り続けて17年目になる、新潟のご当地アイドルNegicco(ねぎっこ)※。そのNegiccoにデビュー以来楽曲を提供しているconnie(コニー)さんは、音楽業界で一目置かれる音楽プロデューサーだ。

注目される理由は、もし、その職種を本業としていることでプロと呼ぶならば、connieさんはプロでありアマチュアでもあるハイブリッドなプロデューサーだからだ。本業は建設会社の営業担当。会社員として働きながら、長くNegiccoを支え、プロのアーティストたちをも巻き込んで曲を提供している。驚くのは、音楽制作の収益は会社の売り上げとして計上されていること。ユニークなダブルワークを続けるconnieさんに、これからを生き抜くストレスフリーな働き方について伺った。

%Negicco(negicco.net)

2003年に結成された新潟発のアイドルユニット。メンバーはNao☆、Megu、Kaedeの 3人。connieさんが音楽プロデュースを担当。小西康陽、ミト (クラムボン)ら有名アーティストから楽曲提供され、メンバーと観客が繰り広げるライブでのラインダンスも評判。2013年から「にいがた観光特使」を務め、苗場プリンスホテルでの恒例イベントが話題になる、地元新潟のみならず、ご当地アイドルの先駆者的存在として活躍。全国17か所でのツアーや私立恵比寿中学とのジョイントライブなどを行い、全国にファンが多い。



本業と副業の音楽制作を融合。会社の定款まで変えたダブルワーク

- connieさんの現在のダブルワークの仕組みについて教えてください。

connie:本業は、株式会社新光ハウスという建設会社の営業担当です。ただし、会社の定款に"建設業"のほかに最後に"音楽事業"と入っていまして、正確には、営業兼音楽事業担当ということになります。会社の営業担当として年間予算を組みますが、プレハブ営業と音楽で予算を達成するという仕組みですね。





― あまり聞いたことがないスタイルですが、音楽制作の収益はどのような形で反映されているのですか。

connie: Negiccoの音楽製作費と年4回の著作権収入(connieさんに帰属)が会社の売り上げとして計上されて、私はその評価として会社から給料をいただいています。

一 そのような仕事スタイルになったきっかけはありますか。

connie:2010年、結婚を機に安定した収入が必要と考えて、新光ハウスに転職しました。その前までは派遣社員としていろいろな職種についていました。転職する前からNegiccoに楽曲を提供していたのですが、もともとファンということもあり、歌ってもらえたら嬉しいという気持ちで、当時は無償に近いボランティアでした。趣味の範囲で土日に制作できればいいと考えていたんです。

Negiccoがタワーレコードのアイドル専門レーベル、T-Palette Recordsに所属することになり、それまでの楽曲もきちんとセールスして形にしようということになったんです。そうすると、会社の給料のほかに、音楽の収入が個人に入ることになります。

この段階で会社側と相談したところ"音楽の収入も会社の収益"として計上すれば、音楽の仕事も堂々とできるのではないかと提案がありました。

会社の定款にきちんと明記して仕事として両立してくださいと。そうすれば、ほかの社員にも音楽活動していることを公表でき、それが会社の売り上げとなって給料に反映されるのであれば、お互いに気持ちよく続けられます。音楽の収入は一時的なものと思っていたので、良い提案だと思い、現在の形になりました。

一 定款まで変えたというのは大きいですね。

connie: そうですね。好きなことができて、安定した収入を得られる今の環境は理想だと思います。もちろん、営業にも音楽制作にも納期や締め切りがあり、重なるとしんどいこともありますが、それはどんな仕事でもあります。

どのように営業の仕事と音楽制作を両立しているのでしょうか。

connie:営業活動の帰り道に車の中で鼻歌を歌いながら曲を作ることが多いですね。その時間がちょうどいい気分転換になっています。一つの曲を作るためにいくつもアイデアを出して、その中でこれはいいなという段階まで試しながら仕上げていきます。いいメロディーができた段階で、自宅で編曲作業をして仕上げます。メロディーを作るのは作詞に比べると得意なほうなので、早いときは数日で出来上がります。楽曲制作をするにしても、ローカルアイドルのNegiccoのペースは私にとってちょうどいいんです。

一 曲の仕上げはご自宅で作業するんですね。

connie:はい。音楽活動を会社で公表してから、勤務スタイルも変わりました。平日に自宅で楽曲制作ができるのは大きなメリットだと思います。

Negiccoの第一印象は「なんじゃこりゃ」



一 Negiccoとの出会いはデビュー当時とうかがっています。どんな印象でしたか。

connie:学生時代にモーニング娘。にはまりまして、卒業後に東京で働いていた時は、心おきなくハロプロのライブが観られると嬉しかったですね。2003年に会社の異動で新潟に戻ってから、地元にもアイドルがいると知り観に行きました。それがデビューしたばかりのNegiccoで、新潟産の「やわ肌ねぎ」のPRのために結成された1か月限定のアイドルでした。持ち歌は『恋するねぎっ娘』の1曲だけ。

当時は、東京で観てきたアイドルとは比べものにならない、「なんじゃこりゃ」と思うほどの地方色を感じてしまいました。しかし、地元で夢を追いかけている姿を見ているうちに、全国区のアイドルとは違うカッコよさを感じました。応援したいなと思うようになったのです。

私は新潟に戻ってから、DJイベントを時々主催していて、ファンになったNegiccoをゲストとして呼べないかなと打診したら快く引き受けてもらったので、せっかく来てもらうならば、イベント用に何か歌ってほしいと思い、曲を作ったのが始まりです。これが『トキメキ★マイドリーム』です。

ー『トキメキ★マイドリーム』がconnieさんの音楽活動のきっかけで、ファンからプロデューサーへと変わったのですね。

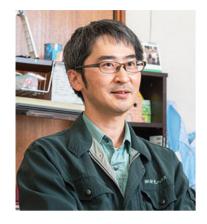
connie: 当初はイベントで一度歌ってもらうだけのつもりでしたが、当時のNegiccoは持ち歌が1曲しかなくて、「引き続き歌っていいですか」と言ってくれて、Negiccoの持ち歌のひとつになったんです。「どうぞどうぞ」と無償で渡しました。ファンとしてはこんなに嬉しいことはないじゃないですか。その後しばらくしてから、楽曲の依頼が来たんです。

一 それから15年以上も楽曲の提供が続くと思われましたか。

connie:いやー、まるで思わなかったですね。期間限定アイドルでしたし。Negiccoの所属していた芸能スクールが閉校してしまったのですが、ファンも多く、地元のイベント会社EHクリエイターズがマネジメントをすることになって、ファンからもCDをもっと作ってほしいという声があり、じゃあ一緒に盛り上げていこうということになりました。



メンバーが結婚しても、続けたいと思う限り、それが望まれる限り支えるのが仕事



一 Negiccoはそれから活動の幅が広がって、「U.M.U AWARD全国大会」で日本一のローカルアイドルに選ばれたり、快進撃が続きました。2011年にはタワーレコードが立ち上げたアイドル専門レーベル、T-Palette Recordsに最初のアイドルとして所属することになりましたね。

connie:新潟県内で活動していたころは、曲ができたらCDを出しましょうというゆるい感覚の活動で、明確な目標がありませんでした。しかし、レーベルに入ったときにタワーレコードの嶺脇育夫社長から「Negiccoはこれからどうなっていきたいですか」と聞かれ、そんなことを考えたことがないと思ったのです(笑)。

一 突然、厳しい世界に足を踏み入れてしまったようですね。

connie: 武道館でワンマンライブという漠然とした夢がメンバーにありましたが、プロデュースする私たちができることは、Negic-coが東京で活動できるだけではなく、新潟でタレントとして長く活動していけるようにすることと思っていました。私も、そんなメンバーのタレント性が見える楽曲を作っていきたいと思うようになりました。

— メンバーのNao☆さん、Meguさんがご結婚されましたが、アイドル活動はどうなると考えられましたか。

connie: EHクリエイターズの熊倉維仁社長が、マネジメントを引き受けた時から、Negiccoを家族のようにサポートしてきました。メンバー3人が地元で長くタレント活動ができるように、それぞれの個性を出すようにしていたし、ソロ活動も徐々に行うようにしたんです。メンバーが年頃になれば結婚も考えられるし、結婚は特別なことではないですね。3人が続けたいと思う限りは支えたいというのがスタッフ全員の思いですね。

ファンの方々や嶺脇社長、熊倉社長のサポートを見てきたので、私もメンバーが結婚しても活動を支えられるように、ウエディングソング(※「カリプソ娘に花束を」)の楽曲を届けることができたのだと思います。こういう考えが、アイドルの定義に当てはまるかどうかはわかりませんが、望んでいただける限りは続けられると思います。

※「カリプソ娘に花束を」 2018年2月6日に発売された、Negiccoの22作目のシングル。

— connieさんが考えるこれからのアイドル像はどのようなスタイルでしょうか。

connie: Negiccoを見て感じるのは"歌っている姿" "話をしている姿" を見ていると元気をもらえるということ。そういう存在が私にとってのアイドル像ですね。いろいろなアイドル像があると思いますが、メンバーをずっと育て、時代時代に合わせて表現していくやり方もあると思います。地域に根差したアイドルだからできるのかもしれませんが。

— 新潟という土地柄だからNegiccoは成功したと思われますか。

connie:新潟は海もあり山も近い、食べ物もおいしいし、東京へも近い恵まれた場所だと思います。東京に近いからこそ、地元で活躍しながらも東京でも知られているNegiccoのことをとても尊重してくれます。Negiccoには東京と新潟のふたつのホームがあるんですよね。これは全国区のアイドルにはない部分で、成功したポイントかもしれません。

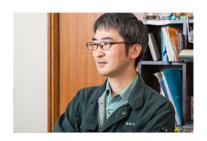
自分のペースは崩さず、本業のステップアップで、好きなことを続ける道を開く

一 リモートワークが日常になりつつありますが、音楽制作で変化はありますか。

connie: Negiccoのライブなどはかなり制限されました。それでも、オンラインライブで配信するなど、今できることに挑戦しています。私も2枚目のアルバム『VOICESII』をこの8月25日に出したのですが、レコーディング作業ができなくて、発売が遅れるなど影響がありましたが、その後はサイン会などを行えているので、今考えるとさほど深刻な支障はありません。



connie:いえいえ。第一弾の『VOICES』は2019年に発売していますが、じつは、Negiccoの活動以外でも会社としての利益を出す仕組みを作りたい。そこで、アルバムを出してみないかと、EHクリエイターズの「Fall Wait Records」のディレクターの雪田さんから言われまして、発売することになったという経緯があります。これはNegiccoの活動が止まっても、事務所が続けられるようにと考えてのことなんです。そしてこれは、新光ハウスの利益にもつながります。





セカンドアルバム『VOICESII』の ジャケット

もちろん、作るからには歌ってもらいたいヴォーカリストにお願いしています。Negiccoの音楽活動を通じてご縁ができたヴォーカリストの方々に参加していただいたのは嬉しいことでした。

一 ご自身のアルバムもNegiccoの楽曲制作同様に、新光ハウスとして受注し、売り上げを計上しているということになるのでしょうか。

connie:そうですね。とはいっても、年間を通じて音楽制作の売り上げの割合はさほど多くはないんです。私の売り上げの半分以上は、本業のプレハブ営業によるものです。やはり音楽だけでは難しい。そう考えると、会社は私のやりがいを生かしてくれているんです。とてもお世話になっている。ですから、音楽を続けるなら、本業もしっかりとやっていかないといけないと思っています。

一音楽で独立するというお考えはなく、本業とのダブルワークを続けていくということなんですね。

connie:弊社の社員は8名。建築士の資格を持っているのは社長だけです。いつかは世代交代を考えなくてはいけない。ですので、2級建築士の資格を取るために、最近週に1回学校に通い始めました。まだ始めたばかりで2年間通う必要がありますが、自分の中で音楽を続けていくためにも、本業をしっかり頑張りたいと思っています。

一 connieさんにとって、好きなことを続けるためには、安定した本業でステップアップしていくことが大切ということですね。

connie:音楽プロデュースは大変ではありますが、本業が安定しているからこそ、好きでやらせてもらっているという感覚があります。続けられる限り続けていきたい。

現在の本業にたどり着くまでに私はいろいろな職種を経験しましたが、今考えると、すべて意味があって役に立っていると思うんです。Negiccoとの出会いも、人とのつながりから始まっています。

Negiccoの活動は決してスムーズではありません。回り道をしたようなこともありますが、17年間も続けられたことは、その回り道さえも正しいことの1つだったと思うんです。一時期無理をしてやるよりも、自分たちのペースを崩さずに、やりたいことを続けてきた結果だと思います。

私自身も安定した本業があることで自分のペースを崩さずに音楽を続けられる。Negiccoとともにこれからも成長していければいいなと思います。



取材後記

Negiccoの躍進とともに、音楽プロデューサーとしての地位を築いてきたconnieさん。「今考えるとラッキーなことが重なった、タイミングがちょうどよくはまったんです」と話します。結婚の条件が安定した仕事を持つことで、新光ハウスに転職したのだそうですが、それが好きなことを自分のペースで続けられる理想の仕事環境になったことを控えめに話します。誰もが、自分の好きなことは続けたいけれど、途中で挫折してしまうことが多いなかで、connieさんがダブルワークを続けられるのは、そこしれない芯の強さがあるからだと思いました。穏やかな表情の内に秘めた音楽への情熱がこれからどんなムーブメントを起こすのか楽しみです。



賢いはたらき方のススメ()

プロフィール

connie(⊐=−)

株式会社新光ハウス社員 Negiccoのプロデューサー

新潟大学卒業。サークルでバンド活動を始める。2001年に東京で就職。モーニング娘。にはまり、東京時代は心置きなくライブに通う。当時の推しは加護亜依。2003年に地元の新潟に異動になり、デビューしたばかりのNegiccoを知りファンになる。以来、音楽プロデューサーとして現在までNegiccoに楽曲を提供。2010年結婚を機に新光ハウスに転職。同時期にNegiccoがローカルアイドル日本一に輝き、2011年、Negiccoがタワーレコードのアイドル専門レーベルT-Palette Recordsに所属してから、自身の音楽制作活動も忙しくなり、会社でダブルワークを公表。作詞作曲編曲を担当したNegiccoのシングル『圧倒的なスタイル』が、フジテレビ系列のバラエティ番組「めちゃ×2イケてるッ!」のエンディング・テーマに採用され、一気にメジャーに。2019年自身のアルバム『VOICES』を発表。2020年『VOICES』』を発表。現在、2級建築士を目指して勉強中。

* 記載されている社名、商品名などは、各社の商標または登録商標である場合があります。

